



イギリスの教育制度

- 世界ランキングの高い大学が多数
- アメリカと比べて、入学時に必要とされる英語力や学費のハードルが低い
- 1年目はファウンデーションコース（大学基礎課程）からのスタート
- 1年次から専門性の高いコースを集中的に学ぶ
- 大学によっては3年で学士号を取得することが可能

大学の概要

イギリスの教育制度

日本で高校を卒業してイギリスの大学に進学する場合は、教育制度の違いから直接入学することができず、インターナショナル ファウンデーションと呼ばれる準備コースへの入学が必要となる。規定成績でコースを修了すれば、エスカレーター式に進学ができる進学保証型と希望する大学へ出願ができるオープン型がある。進学保証型のファウンデーションについては、大学キャンパス内に教室がありそのまま進学することが前提となる（一部キャンパスが異なる大学もある）。オープン型の場合には提携している大学であれば進学が規定成績が取得できれば出願しなくとも進学可能だが、自分で希望する大学へ出願することもできる。出願の際にはアドバイザーがサポートしてくれる。

世界ランキングの高い大学が多数

アメリカの大学ほど数はないが、世界トップレベルの大学がイギリスには多くある。QS World University Ranking 2022ではトップ10のうち4校がイギリスの大学で、世界最古の大学はオックスフォード大学で記録上は1096年から開学している。その他にも古代の大学（Ancient University）と呼ばれる大学が多数あり、長い歴史を持つ大学が多いのも特徴。

現在、私立の総合大学は1校のみで、その他の大学は公立大学となっている。音楽などの専門科目を学べる大学は私立大学もある。

イギリスへの大学進学がおすすめな理由

自分の専攻したい分野を集中的に学ぶことができるため、専門性を高めることができる。専門分野の履修だけでなく、自分で関連した分野のクラスを選択履修することも可能。各大学はアカデミックアドバイザーが学生に1人ずつつき、定期的な面談も行われる。学業の進捗状況も確認されるため、様々なアドバイスを受けることができる。また、学年が進むと各クラスの人数が減っていき、最終学年時にはチュートリアルと呼ばれる担当教授と1対1ないしは1対2で徹底的に討論を重ねることになる。

産業界との繋がりも強く、インターンシップに専念する1年間を作ることもできるのが特徴。世界最先端の研究をしている教授が実際に教鞭をとっていることが多い。

教育制度比較

年齢	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
日本	中学			高校			大学			
イギリス	Secondary school			Sixth Form			University			
日本から進学する場合	中学			高校			Foundation	University		

International Year Oneとは、FoundationとYear 1（イギリスの大学1年次）を1年にまとめたプログラムとなります。このコースを取り入れている大学ではInternational Year Oneを規定の成績で修了すると、Year 2（イギリスの大学2年次）に進学することができ、学士課程を最短3年で卒業することができます。